子宮頸がん検診　Q&A

Q1　HPV とは何ですか？

A1　ヒトパピローマウイルスの略になります。主に性交渉を介して感染します。このウイルスは細胞分裂が盛んな若い人ほど感染率が高い特徴があります。

Q2　子宮頸がんの症状はどのようなものがありますか？

A2　初期の子宮頸がんは、自覚症状はほとんどありません。がんが進行すると、不正出血や下腹部痛、血尿などの症状が出ることがあります。

Q3　子宮頸がんは子宮がんの何割を占めていますか？

A3　全体の約６～７割です。

Q4　子宮頸がんにかかる人は増えていますか？

A4　２０代から３０代に増加しています。背景には性体験が低年齢化していること、この年代の検診受診率が低いこと、HPV は細胞分裂が盛んなため若い人ほど感染率が高い特徴があります。

Q5　子宮頸がん検診で何がわかりますか？

A5　がんになる前の状態を発見することができます。がんを予防することができる検診です。しかしながら、がん検診で必ずがんを見つけられるわけではありません（偽陰性）。また、がんがなくてもがんと診断される場合もあります（偽陽性）。

Q6　細胞診検査と HPV 単独検査の内容を教えてください。

A6　【細胞診検査】問診・視診・子宮頸部の細胞診・内診
子宮頸部の細胞診…子宮頸部（子宮の入り口）を専用器具でこすって細胞を採り、細胞の形を顕微鏡で調べる検査です。
【HPV 単独検査】問診・視診・HPV 検査
HPV 検査…子宮頸部（子宮の入り口）を専用器具でこすり、HPV-DNA を検出することで感染しているかどうかを調べる検査です。

Q７　出血やおりものの異常などの症状がありますが、子宮頸がん検診を受けてよいですか？

A７　検診当日の状態により受けられない場合があります。
不正出血や月経の異常（不規則な周期、月経の量）、下腹部の痛みなど、気になる症状があれば検診を待たず、すぐに保険診療で医療機関を受診しましょう。

Q８　受診期間はいつからいつまでですか？

A８　【個別健診】
令和７年６月２日(月)から令和８年３月１４日(土)まで
【集団健診】
令和７年６月から令和８年２月の検診実施日
※検診実施日の詳細はホームページまたは健康ライフたつの２０２５年４月号をご確認ください。

Ｑ９　申し込み方法を教えてください。

Ａ９　【個別健診】

①電子申請またはハガキで申し込み。

※６月１６日（月）以降はお電話で申し込みができます。

②受診希望月までに受診連絡票が郵送で届く。

③医療機関に電話で申し込み、受診日を決定する。

④受診連絡票または検診無料券を持参し、検診を受診する。

※検診無料券が届いている方は申し込み不要です。医療機関へ電話等で予約の上、検診無料券を持参し、受診してください。

【集団健診】

①電子申請またはハガキで申し込み。

※６月１６日（月）以降はお電話で申し込みができます。

②受診票が郵送で届く。

③受診票に記載されている日時で受診する。